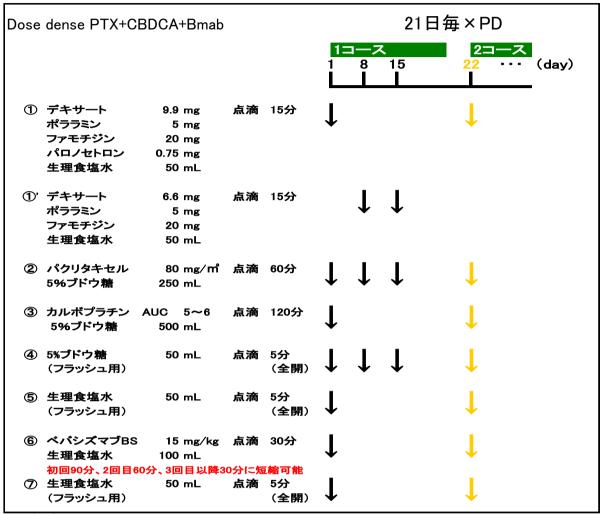
登録日 2016/5/18

登録番号 Ova017

|腫瘍名 |卵巣がん

申請医師 産婦人科

投与スケジュール



注意事項

- ・卵巣がん 進行再発事例や寛解導入に対して使用。
- ・臨床試験上はベバシズマブBSの継続使用は1年であるが、特に再発例を含めた実臨床においては 効果認める状況であれば継続は可能として使用。
- ・臨床試験上の減量基準(参考値)

Day1:好中球>1500、PLT>10万 →full dose、この値未満で延期を考慮する。

7日以上遅延したら次回のパクリタキセルを10mg/m2減量またはG-CSF製剤投与を考慮する。

Day8, 15: 好中球>1000、PLT>8万 →full dose、この値未満でこの日の投与中止を考慮する。

- ・Calvertの式: CBDCA量(mg) = AUC×(GFR+25)
- ・JMSニトログリセリン用点滴ライン、 0.22μ mのメンブランフィルターを使用すること。 (「JMS輸液セット PVCフリー IVF ポンプ兼用(型番JP-PF320RL11)」)
- ・ベバシズマブBSは、初回90分、副作用がなければ2回目60分、3回目以降30分に短縮可

参考文献

1) Antonio GM, et al, Efficacy and safety results from OCTAVIA, a single-arm phase II study evaluationg front-liine bevacizumab, carboplatin and weekly paclitaxel for ovarrian cancer, European journal of Cancer, 49, 3831-3838 (2013).